

# のんた

18

山口の土地改良

vol.18

Winter 2016

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう！

●巻頭特集

常盤湖

「世界かんがい施設遺産」に登録！

新たな「土地改良長期計画」について  
―「個性と活力のある豊かな農業・農村の実現」を目指して―

入選作品のご紹介

第17回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」  
子ども絵画展2015

●やまぐちの「農の偉業」探訪①  
山口市名田島

見よ。開作の軌跡を！  
この地で花開く農業を！



# 常盤湖

## 「世界かんがい施設遺産」

# に登録！



水田のかんがい施設として江戸時代に造られた宇部市の常盤湖が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。中国地方では初めての登録です。世界的に評価された常盤湖について紹介します。



### 世界かんがい施設遺産とは？

「世界かんがい施設遺産」とは、国際かんがい排水委員会が、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として創設したもので、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するものです。

対象となるのは、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたものなど。これまで日本からは13施設が登録されました。

そうした中、平成28(2016)年11月、世界かんがい施設遺産として日本から新たに14施設、中国地方としては初めて「常盤湖」が登録されました。

常盤湖は、貯水量約377万トン、満水面積80・9ヘクタール。常磐公園の中心を占める、山口県で最大の湖です。

### 常盤湖はいつ造られたの？

常盤湖が造られたのは江戸時代、18世紀初めのことです。それまでこのあたりの地域は荒涼とした原野でした。

寛永2(1625)年、周防・長門国内の領地替えにより、吉敷(現在の山口市吉敷)を知行地としていた毛利一門の福原氏が宇部の領主となります。福原氏は開作に取り組み、南部の草江・常盤一帯の開発を計画。用水の確



「常盤池由来」より常盤溜井之略図  
明治18(1885)年(山口県文書館蔵)



ため池施設:余水吐流入部

保へ向けて秋藩に常盤湖の築造を願い出て、許可されます。

しかし、その築造になかなか着手できずにいたところ、福原氏は農民たちの願い出を受け、元禄8(1695)年、着手します。水がなかなか貯まらなかつたり、土手が崩落したりといった困難を経て、工事開始から3年後の元禄11(1698)年、広さ約80ヘクタールの常盤湖が完成します。

元禄14(1701)年には、溜水や用水路工事なども完成。その結果、天保末期には、用水を供給できる田畑は305町9反7畝に。地域の米の生産量は2、638石から幕末期には8、369石へと飛躍的に増加します。1石は大人1人が1年間に消費する米の量にほぼ等しいとされ、約5、000石の増加は約5、000人分もの食糧を賄えるようになったことを意味します。

### 常盤湖のプロフィール

- 供用開始年…元禄11(1698)年
- 現在のかんがい面積…17ヘクタール
- 現在の湖の広さ…南北約1.8キロメートル、東西約1.3キロメートル



### どんなふう に緑と花と彫刻のまち宇部の シンボルとなつていったの？

明治維新後、宇部は炭鉱のまちとして発展していきました。大正9(1920)年、湖畔の別荘地に桜が植樹され、常盤湖は自然風景を活かした景勝地となつていきます。

大正10(1921)年、宇部村は宇部市に昇格します。それにともない、宇部の実業家・渡辺祐策らによって、常盤湖周辺を市民に開放するため、土地の購入が進められます。それらの土地は市へ寄贈され、大正14(1925)年、ときわ公園が誕生します。

当初は農業用として造られた常盤湖でしたが、昭和18(1943)年には山口県の事業によって厚東川から水が引かれ、常盤湖は工業用水の遊水池としても活用されるようになりました。

第二次世界大戦後、石炭のまち、工業都市として発展していた宇部は深刻な煤塵公害に悩まされるようになります。公害を克服するため、市民によって「公園を花で埋める運動」が提唱されます。

そうした市民の活動は「宇部を彫刻で飾る運動」へ、昭和36（1961）年にはときわ公園を会場とした「宇部市野外彫刻展」の開催へ、昭和40年（1965）からは隔年開催の「現代日本彫刻展」へと発展。今やときわ公園は国内最大級の野外彫刻国際コンクール「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」の会場や彫刻の展示場として国内外のアーティストや観光客に親しまれるようになっていきます。

さらに平成20（2008）年には、ときわ公園は、国の登録記念物に登録されます。その登録は、常盤湖が「近世萩藩の新田活澁に伴って造成された人造湖を母体とし、その後、自然風景を活かした景勝地として発展を遂げた都市公園」であり、「造園史上の意義は深く、造園文化に果たす役割が大きい」などとして評価されたからでした。先人によって築かれ、緑と花と彫刻のまち宇部のシンボルとなり、世界かんがい施設遺産として国際的にも認められた常盤湖。300年以上、田畑を脈々と潤してきた常盤湖は今、地域や国を超えた多くの人々を潤す心の湖となっています。



ため池施設:底樋出口



ため池施設:斜樋



ため池施設:余水吐放流部

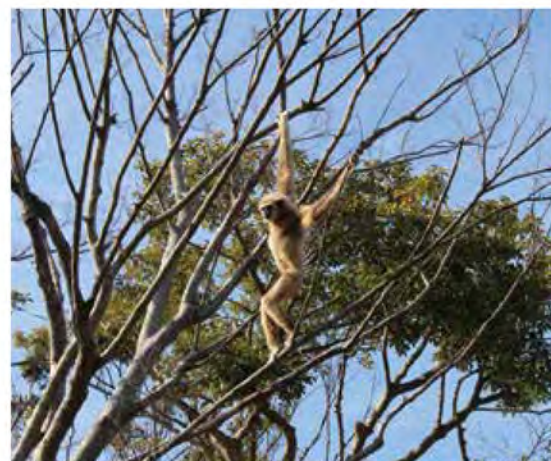
### ときわ公園って、どんな公園？

- 国の登録記念物（名勝地関係）
- 日本の都市公園100選
- 日本さくら名所100選
- 21世紀に残したい日本の風景
- 総合公園部門1位
- 美しい日本の歩きたくなるみち500選
- 池坊花道道100選
- 新日本歩く道紀行文化の道100選



### 世界かんがい施設遺産「常盤湖」の「こ」に注目！

- 新田開発と荒廃した農村の回復を行うために造られたかんがいのため池！
- 約305町9反7畝の水田のかんがいが可能に！
- 人口1、200人の当時、年間5、000人以上の食糧増産を可能にした先見の明！
- 原野に堤を築き、雨水をせき止めて造られた人造湖！
- 300年をこえた宇部市の農業・工業の礎！
- 「緑と花と彫刻のまち宇部」のシンボル！
- 土手のみで湖を堰き止めている！
- 公園内に地域の伝統文化を物語る石炭槽がある！
- 江戸時代に完成。今も常盤湖を中心とする都市公園として市民に愛されている！



ときわ公園内に平成28(2016)年春、「ときわ動物園」がグランドオープン。動物の生息環境展示を園全体で行った動物園としては国内初。動物たちの生き生きとした姿を間近で見られるとあって大人気！

### 参考文献

- 『宇部市史 通史篇』上巻 1992
- 『宇部市史 通史篇』下巻 1993
- 農林水産省HP「世界かんがい施設遺産」
- 宇部市HP「世界かんがい施設遺産常盤湖」など

## 新たな

# 「土地改良長期計画」について

「個性」と活力のある豊かな農業・農村の実現』を目指して

国では、土地改良法に基づき、「土地改良長期計画」を5年ごとに策定しています。平成28年8月、新たな土地改良長期計画（平成28年度～32年度）が策定されました。そのポイントについて紹介します。

## 農村協働力の舞台は今…。 あらためて評価された 土地改良事業の役割

土地改良長期計画は、土地改良法の規定に基づき、新しい農政の方向に即し、土地改良事業が計画的に実施されるよう、食料・農業・農村政策審議会の意見を聞いたうえで計画案が作成され、閣議決定されるものです。

高齢化や過疎化などの急速な進展…。地域の問題に取り組み、地域を良くしていくとする「農村協働力」の舞台である農業・農村を取り巻く環境は今、厳しさを増しています。

そうした中、平成28年8月に策定された土地改良長期計画は、「土地改良事業が担ってきた歴史的な役割を改めて評価し、その特徴を活かしつつ、新しい農業・農村の構築に役立てていくことが重要」と、土地改良事業が果たしてきた役割を改めて評価するものとなりました。



## 農地・農業水利施設などの 減少・劣化が進む今、 土地改良事業の役割とは？

土地改良事業の使命、果たすべき役割とは何なのか。新しい土地改良長期計画では、その使命・役割について、「広く国民に恩恵をもたらしてきた農村を将来にわたり継承するとともに、来るべき



## 政策課題2…地域政策

美しく活力ある農村

【政策目標】  
3 農村協働力と美しい農村の再生・創造  
4 快適で豊かな資源循環型社会の構築

【達成すべき重点目標】  
○地域資源の保全管理の質と持続性の向上

○農村の生活基盤の再編等による保全管理の効率性の向上  
○再生可能エネルギーの導入による維持管理費の軽減

【事業量】

- 地域共同活動による農地・農業用水等の保全管理面積：約280万ha
- 経済的・効率的な小水力発電施設の整備地区：約120地区
- うち、小水力発電整備地区において売電益を補修に活用する地区：約100地区
- 機能保全計画を策定する農道橋及び農道トンネル  
：農道橋約3、100箇所・農道トンネル約200箇所
- 機能診断を実施する農業集落排水施設  
：約1、600地区
- 農業集落排水汚泥の再生利用を実施する地区：約300地区

## 政策課題3…産業政策と 地域政策の土台

強くしてしなやかな農業・農村

【政策目標】  
5 老朽化や災害リスクに対応した農業水利施設の戦略的な保全管理と機能強化  
6 災害に対する地域の防災・減災力の強化

【達成すべき重点目標】  
○健全度評価に基づいた施設の保全管理の効率性の向上

○洪水被害等の災害防止と施設の耐震化  
○地域資源や農村協働力等を活用した防災・減災力の強化

【事業量】

- 更新等に着手する基幹的農業水利施設  
：水路約1、500km、機場等約210箇所
- 各種防災事業の実施：約2、400地区
- 耐震対策が必要と判明している重要度の高い国営造成施設のうち耐震化計画を策定する施設  
：17箇所
- 機能診断を実施する基幹的農業水利施設  
：水路約0.9万km、機場等約2、200箇所
- 機能保全計画を策定する基幹的農業水利施設  
：水路約13万km、機場等約2、500箇所
- 耐震調査を行う重要度の高い国営造成施設  
：約110箇所
- ハザードマップ等ソフト対策を実施する防災重点ため池：約5、000箇所



## 土地改良を通じて 農村協働力の深化を

また、魅力ある地域社会を發展させていくためには、農業者が地域住民や行政と連携しながら関わり合い、互いの知恵や能力を最大限に発揮して「農村協働力

を深化させていくことが重要」としていきます。これらふまえて、新たな土地改良長期計画の基本理念として「社会資本の継承・新たな価値の創出と農村協働力の深化」が掲げられ、「個性と活力のある豊かな農業・農村の実現」を目指すこととなりました。

高収益作物の導入を通じた所得の向上や生産コストの削減によって、力強い農業の牽引役へ。次世代を担う若者が活躍できる魅力ある農業の後押し役へ。人口減少・高齢化や大規模自然災害等に伴う集落機能の低下が心配される中、土地改良がこれまで培ってきた農村協働力のさらなる活性化へ。

土地改良には今、持続可能な農業・農村の実現だけでなく、地方創生の道へとつながってほしいという、国の切なる願いが託されています。



## 社会資本の継承 社会資本の 新たな価値の創出 農村協働力の深化

## 政策課題1…産業政策

豊かで競争力ある農業

【政策目標】  
1 産地収益力の向上  
2 担い手の体質強化

【達成すべき重点目標】  
○高収益作物への転換による所得の増加  
○6次産業化等による雇用と所得の増加  
○担い手の米の生産コストの大幅削減

【事業量】

- 水田の汎用化：約15.9万ha
- 水田の大区画化：約8.3万ha
- 畑の区画整理・排水改良：約3.1万ha
- 畑地かんがい施設の整備：約2.5万ha

### ココに注目！

**先進的な事例に見られる特徴とは？**  
先進的な事例には、次のような特徴があります。これらの特徴をあなたの地域の取り組みの参考にしてみてください。

- 中心的なヒトや組織の存在
- 関係者間の連携
- 継続した話し合い
- 問題意識とビジョンの共有
- 土地改良事業とさまざまな取り組みの組み合わせ
- 持続的な発展の可能性
- 地域類型や営農類型等を踏まえた整備水準や土地利用の模索

### ココに注目！

**あなたの地域の手がかりに！**  
**農林水産省 HP「農村振興プロセス事例集」**  
(URL:<http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/totikai/process.html>)

土地改良事業を契機として特色ある發展を実現した先進的な事例が農林水産省のホームページで紹介されています。あなたの地域の取り組みの手掛かりとしてみませんか。山口県からは、農村振興プロセス事例として周南市の取り組み「ツルを守り、地域を守る」ツルの里再生に向けた地域農業の展開、が紹介されています。インターネットで「農村振興プロセス事例集」というワードで検索してみましょう！



**山口新聞社賞**

『うまくつけるかな!』 下関市菊川町歌の清流庵  
政村 茂 (下関市)

毎年12月26日にもちつきがある。親子でもちつきを体験している  
子どもさんがとても可愛らしく、シャッターを切りました。



**水土里ネット山口会長賞**

『台地と共に生きる 二毛作』 美祿市美東町嘉万  
石川邦夫 (宇部市)

台地の稲作は、田んぼの100%が活用され、おいしい米が沢山生産されています。そして田んぼの一部には、麦が植え付けられ、12月頃になると美しい緑の幾何学模様の風景も又素晴らしいものです。



**中国新聞防長本社賞**

『共生』 山口市秋穂  
井上 守 (防府市)

放牧牛が牧草を食べると昆虫やみみずを食べにアマサギが寄ってきます。  
この時は、余りに多くのアマサギにびっくりしました。



**山口県知事賞**

『守りたきもの』 周南市中須北  
木村協子 (防府市)

大好きな場所を守るおばあさんが杖をつきながら一步一步畦道を歩いている姿に「無理  
をせず、お元気でいてください」と祈るような気持でシャッターを切りました。



**山口県地球人会議会長賞**

『潮風の中で』 下関市豊北町栗野  
戸倉 直 (宇部市)

下関市栗野川で採られたアオノリはその日に干してしまわなければならないので、  
家族総動員で干している中、おばあちゃんの一生懸命の様子がよかったですので撮影  
しました。

第17回  
食料・環境「水・土・人・暮らし」  
ふるさと写真コンテスト  
一般の部

入賞作品のご紹介



山口県内の農山漁村の良さを再発見していただく「水・土・人・暮らし」をテーマに、平成11年度から始まった「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」17回目を迎える今年度は、9月から12月にかけて募集を行ない、県下各地から農山漁村の風景や生き物人々の営み、伝統文化、などを撮った481点の作品の応募がありました。

すばらしい自然や文化が数多く残る農山漁村は、まさに私たちの、そして生き物たちの心通うかけがえのないやすらぎの地、次世代に残していきたい宝です入賞作品22点を「紹介」します。

# 食料・環境「水・土・人・暮らし」 ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



**山口県地球人会議会長賞**  
『妹とのいもほり』 宇部市上宇部  
末永大智 (宇部市・小学3年)

いもほりをしていると、とつぜん大きな声で「ほれたー!!」とさげんだ所をとりました。



児童・生徒の部



入選



『みんなでおいしいお米を作ろう』  
周南市  
三浦沙紀 (下松市・小学2年)

じいちゃん、ばあちゃん、パパ、ママ、おじちゃんがいねかりをしているところをとりました。



『鳥もお花見してるのかな?』  
宇部市小野  
師井和奏 (宇部市・小学6年)

広い田んぼのそばに桜の木があってその周りに鳥がたくさんいて、お花見しているように感じたのでとってみました。



**優秀賞**  
『コンバイン』  
萩市佐々並  
柳生湊介 (山口市・6歳)

稲を刈る様子がすごいと思ったから

優秀賞

『あじさいと小水力発電』  
周南市四熊尾花  
井川拓也 (周南市・小学5年)



優秀賞

『いのち』  
周南市須々万本郷  
浴井琢充 (周南市・中学3年)

台風で倒れた木を人間が手を加えることによって、再びたくましく生きようとする木々達。



『初夏の棚田』 周南市中須北  
財満真千子 (宇部市)

棚田という厳しい環境の中で一生懸命、食の為に作業されている農家の皆様には敬服致します。その様子を撮影しました。



『生きる』 周南市  
山本由里子 (周南市)

過疎の村で一生懸命あぜ草集めをしておられる人に感動。長い間守ってこられた農地はまだ荒らすことはできない。今を生きるんだという意気込みを感じました。そばには休耕田はない。



『早朝の青のり漁』 下関市豊北町栗野川  
大西邦彦 (下関市)

下関市豊北町、栗野川河口の青のり漁の様子を撮影。例年冬の早朝に行われる青のり漁、資源保護のため15~20分程度の漁、熱気がかもり寒さを感じさせない。



『クライマックス』 下関市彦島福浦町  
谷野和恵 (山陽小野田市)

下関市彦島の金毘羅例祭です。御神輿を上げ下げしながら街中を練り歩き、夕刻「海じゃ」「山じゃ」と掛け声をかけながら海に突入する神事です。大変楽しいお祭でした。



『梨狩り楽しいな。』 山口市下小鯖  
多賀谷真紀子 (防府市)

いいが趣味でやっている自己流の果樹園に孫が梨狩りにやって来ました。脚立に上がって両手を伸ばし、くるっ!! 「梨とっどー!!」その場で皮をむいて食べました。楽しかったね。今度はりんご狩りができるね。



『農業夫婦』 周南市大神  
田村昌明 (周南市)

イネ刈り撮影に行きました。



『シラス干しに勤しむ』 萩市浜崎  
大井幸枝 (萩市)

好天に恵まれた菊ヶ浜沿いでシラスの天日干しの光景に出会いました。菜箸で手際よく裏返す技に感動しました。このようにして手塩にかけたシラスが食卓にのぼると思うと感無量です。トップライトをうまく利用してシラスの様態を出しました。



『干し大根』 岩国市阿品  
八橋静恵 (山陽小野田市)

阿品タクアンは有名で、干した大根は黄色につけこむ。大根畑にたくさん干してあり、作業中に撮影させていただきました。

17th  
Furusato  
photography  
contest

一般の部



『アートな取り入れ』 周南市  
河野孝文 (光市)

昨年からのアイデア。たまたまのぞくとアートな棚田が。思わずシャッターを。遊び心でキツイ作業を楽しまれているように見えました。頑張ってください。



『領家のしだれ桜』 山口市徳佐  
横川光成 (防府市)

田園地帯に咲く領家の枝垂れ桜。木立を背景に横に大きく広がる桜がいつそう美しく見えました。



『秋空の下で』 周南市  
三浦秀貴 (下松市)

よく晴れた秋空の下で稲刈りをする様子を、迫力が出てかっこよくなるよう、広角レンズを使いローアングルで秋空をバックに撮りました。

主催 / 食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議

山口県・水土里ネット山口

後援 / 山口新聞社・中国新聞防長本社



名田島の農地は約560ha。主に米麦360ha、大豆は80ha。そのほかは野菜や花など

やまぐちの「農の偉業」探訪①  
山口市名田島

見よ。開作の軌跡を！  
この地で花開く農業を！

取材・文：石井里津子

新山口駅の新幹線口から南へ、車で5分。広大な田園地帯が山口湾に向けて伸びている。山口市名田島地区。ここは開作地だ。山口県では、干拓された農地のことを「開作」という。名田島を含む、県内瀬戸内側の開作の歩みはさまざま。山口湾一帯だけでもその総面積は1千haに及ぶとい、数にして30もの開作が1408年から1964年まで繰り返され、耕地は拡大し続けた。樫野川堤防の防風林をくぐり抜け、山口市名田島を突き進む。そこには、ただっ広い空の下、米に麦、大豆、さらには山口オリジナル野菜・はなっこりーをはじめとする露地野菜やハウス栽培など、耕地利用率200%の一大農業エリアが待ち受けていた。

Congratulations!!

入選おめでとう!!

「ふるさとのおんぼと水」  
子ども絵画展2015

主催：全国水土里ネット・都道府県水土里ネット

日本の農業・農村は、人が生きていくために必要な食料を生産する場であるとともに、自然環境を守り多様な生き物の命を育む場でもあります。さらには洪水を防止したり、大気や水質の浄化をするなど多面的な機能を持ち、人が安心してくらすために欠くことのできない多くの役割をも果たしています。また、農村の豊かな自然や美しい風景、歴史的な遺産や伝統などはかけがえのない国民の財産でもあります。

「ふるさとのおんぼと水」子ども絵画展は、子どもたちの作品を通して、おんぼや農村、自然環境への人々の関心呼び覚まし、理解を持ってもらうために始められたものです。

今年「新発見！ぼくのわたしのふるさと」をテーマに、未就学児から小学校6年生までの力のこもった作品が全国から7、163点の応募があり、山口県からは2名の方が入選しました。おめでとうございます。その作品をご紹介します。



水土里ネット山口 会長賞  
「夢のお椀プール」  
山口市立宮野小学校5年(当時)  
藤井咲妃さん



入選  
「たな田とヒマワリ」  
周南市立久米小学校3年(当時)  
佐古朝陽さん

## 江戸初期に開作がはじまった 名田島

「ここは、一面の田んぼの写真が撮るんですよ」としたら、背景にビル群が映るんですよ」と、  
山口市榎野川東土地改良区理事長、浅原利夫さん（昭和18年生）が愉快そうに笑う。確かに、広大な田んぼの向こうに林立するマンションやビルが見える。同じ干拓地ながら、山口湾に注ぐ榎野川河口の西側、旧小郡町の市街地は都市化が進み、かたや、東側の名田島地区（旧名田島村、昭和19年に山口市）は、真っ平らな田畑の上を風が自在に駆け抜けていた。



写真左手の建屋は、名田島地区にある排水機場の一つ。「干拓地の命は、排水」。浅原さんが言う。満潮時は海拔0m以下になる。今は土地改良事業のおかげで排水ができ、大豆栽培も可能に

榎野川は開作が進むたびに長くなり、耕地は広がった。歴史を紐解けば、山口湾の開作は、毛利の殿様抜きには語れない。1600年の関ヶ原の戦いで破れた毛利輝元は、中国6カ国から防長2カ国へと追いやられ、当初から極度の財政難

が揃う。樋門の仕切り板を通す溝枠の掘り出しもまっすぐだ。どれも人力。圧巻の手仕事だった。使われなくなつて約90年を経た現在、木製の扉の姿はない。だが、壮観の石積みは、築造から約250年後の今も堂々と鎮座していた。



四挺樋。南蛮樋の建造や改修にかかわったのは、萩城の石垣・石組工を建造した山口市秋穂二島の石工棟梁である

南蛮樋から顔をあげれば、目の前に広がる農地が目に入った。荒地地がなかった。この400年、「財力」の生み出し方は多様化した。だが、「食べる」というわたしたち人間の原点は変わらない。名田島の開作地は、今もその大切な務めを果たし続けている。

## 学校給食のパンも 名田島の小麦と米粉から

山口県内の公立小中学校の給食で出る「県産パン」。100%県産材料を使ったパンだ。県産小麦90%+県産米粉10%。その原料の産地がズバリ、名田島なのだ。小麦だけでなく、名田島で製粉された米粉も年間50トンがパンとなる。

に苦しんだ。それゆえ、開作による耕地拡大が藩の命綱となる。だが、もはや内陸部に開拓地は残っておらず、もつぱら海岸線に耕地を求めた。

こうして、1610年に田畑総数4万7千町歩（<sup>1</sup>）だったものが、明治維新後には8万町歩に達している。

名田島も江戸時代初期に開作がはじまった。浅原さんが説明してくれる。

「名田島は1626年の長妻開作が一番はじめ。小さな島を取り込んだ開作で、そこは今も島という地名が残っちゃう。

その次は1650年の慶三開作。1690年に元禄開作。そのあと1774年の新開作で、うちの家は入ってきたんです。最後が昭和5（1930）年の昭和開作。大正11（1922）年から潮止め工事やつて、昭和2年には入植してきちよるね」

地元は「カイサク」とは言わず、「ガイサク」と音を濁らす。

同土地改良区、河村博次常務が昭和開作の記念写真があると見せてくれた。

「開作は、まず堤防を築くことからはじ



大正14年5月16日 潮止協賛会発行の「県営小郡干拓潮止記念写真帖」より。「県営小郡干拓土工状況」（所有：山口市榎野川東土地改良区）



史跡の看板前で。「周防灘干拓遺跡 名田島新開作南蛮樋」が史跡の名称。1996年、山陽小野田市「高泊開作浜五挺樋」とともに国史跡に。1774年12月に竣工した堤防と2つの南蛮樋（三挺樋、四挺樋）、そして2カ所の排水用招き樋、内水樋門のほか遊水池（汐廻し）が、遺跡として指定

まるんです。潮止めです。海に堤防を造つて開作予定地を囲む。樋門を造り、干潮のときにどんどん排水して水を抜く。こうして土地ができていった。山を削って、土を入れたわけじゃないです」

「こつちが三挺樋やね」  
浅原さんが、堤防のまん中あたりまで進んで見下ろし、指をさす。堤防が切れ、大きな石柱を幾本も渡した橋がある。そこが樋門跡だ。近づき、のぞいて驚いた。

## 見下ろせば壮観 国指定史跡・南蛮樋

この古い樋門「南蛮樋」が、国指定の文化財になっている（平成8年指定。排水用の人工河川・中川の河口にある。逆三角形をした遊水池の向こうに、長さ1・2kmもの堤防が東西に延びている。

堤防が上がると、その道幅の太さに驚いた。8mほどはありそう。湾とはいえず、海から耕地を護るにはかなりの厚みが必要だったのだろう。それを堅牢な石積みで固めている。その高さは人の背を遙かにしのぐ。



榎野川寄り（西）から堤防を歩き始めると、まず三挺樋があった。古い絵図からかつては榎守小屋もこの堤防の東にあったことがわかっている

花崗岩の巨大な切石を組み合わせた樋門壁の美しいこと。まるで城壁のような精緻さ。約40cm角で長さが2〜4m以上もある石の角柱など何種類もの角材が、まるで積み木のごとく組み合わせられている。さらに進むと四挺樋もあった。構造が違う。が、いずれも、ろくろで巻き上げる仕切り板を上げ下げし、水を止めたり出したりした。三挺は、その板が3枚、四挺は4枚。満干にあわせ、1日に4回、この板を上げたり下げたり。満潮時には海水が入るのを防ぎ、干潮時には排水を外に流した。

いずれも江戸中期の卓越した土木技術の高さを感じ取れた。切り揃えた石の角材を5mに及ぶ高さまで、横積みや谷積みで積み上げる技術。しかもびしっと面

伺った12月、麦まきを終えたと話していた浅原さん。浅原さんは2011年、新開作の西地区23戸で農業法人を設立している。名田島には、集落などで立ち上げた小さな法人が9つある。法人にすれば、女性や高齢者も一緒にやっていけるという。浅原さんの法人では、時給2千円。破格の時給だ。やはり、山口県内でも屈指の農業エリアなのだ。

「農業は儲かるぞ。ええぞ！って、胸張つてもっと伝えていかないと」  
浅原さんは続けた。

「名田島には、年間8万4千人が訪れる市立のスポーツ文化施設があるんですよ。これだけの人が名田島に来ちよるんですよ。ですから、その近くに農家レストランや直売所、農業体験など農業の交流拠点がありましたら……」



昭和樋門も2006年に電動巻き上げ式のステンレス製フラップゲートに変わった。「昭和17年8月の満潮時に大型台風が来て堤防が決壊して、名田島で32名が亡くなってね。牛馬はもっと」浅原さん（写真）が説明してくれた。家の被害も約300戸、水稲500町歩全滅という大災害だった

新幹線の駅に近い一大農業エリア・名田島。地の利を生かし、農業を核とした観光名所となる日も夢ではない。今後、文化財・南蛮樋の周辺整備も進み、一般の人も安全に見て歩けるといふ。

名田島では、ビール用の二条麦も日本酒用の掛米も栽培されている。一面に広がる麦穂や稲穂を見ながら、その酒をぐいっと一杯……。それに、大人だって県産パンを頬張ってみたい。飲んでも食べなくても旨いに違いない。

主な参考文献：『史跡周防灘干拓遺跡名田島新開作南蛮樋保存管理計画策定報告書』1998年  
編集発行：山口市教育委員会



取水は榎野川上流にある淋洗井堰（りんこういせき）から。寛永・万治年間（1640～1660）に築造。川の東側（写真では向こう岸・左岸）に、名田島へ流れる用水路がある。右岸側は小郡を潤す

樋門の手前には遊水池がある。この貯水スペースがあることで、排水するための水圧が確保できる。田畑の向こうに榎野川西岸の市街地が望める



# のんた Photo Column vol.18



## ため池の役割

ため池は、降水量が少なく大きな河川に恵まれない地域などで農業用水を確保するために人工的に造られた池です。ため池には、農業用水はもとよりその他にも多面的な役割があります。山口県内には約10,000箇所のため池があり、その数は全国4位の多さです。

水田や畑の農業用水に

自然環境に恵まれた  
心安らぐ親水空間として

火災に備える防火用水として

水生植物類や水鳥、  
昆虫類などさまざまな生き物の  
生息空間として

大雨の時の洪水緩和に

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市糸米2丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内  
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<http://www.yamadoren.or.jp/>